

カムチャッカ半島沖地震による津波①

■残された堆積物等から考察する津波の様子 七北田川河口

7月30日8時24分に発生したカムチャッカ半島沖の地震により、宮城県にも津波が到達した。気象庁のデータによると、仙台港の第1波到達時刻が30日11時35分、最大波は30日23時20分に到達した0.9mであった。津波注意報が31日16:30に解除されたため、同日17:30頃から蒲生干潟で津波の痕跡を観察した。

Fig.1は調査日の七北田川河口、Fig.2は今年の1月の河口である。赤枠で囲んだ水門付近の積石で比較すると7月の方が水位が低い状態である。水位が低いにもかかわらず、Fig.1には河口の砂州が見られない。Fig.3は河口の近景であるが、砂州は存在しない。これは、津波によって砂州が持ち去られてしまった可能性が考えられる。7月21日は水位が低い日ではあったが、砂州は存在している (Fig.4)。



(Fig.1 2025年7月31日の河口)



(Fig.2 2025年1月13日の河口)



(Fig.4 2025年7月21日の河口)



(Fig.3 2025年7月31日の河口 近景)